

今回からは史幸工務店が展開の【ハイブリッド・エコ・ハートQ】工法について紹介いたします。

住宅は新築しさえすれば、快適になるとお考えの建て主様もいますが、それは大きな間違いです。新築しても施工店に確かな施工技術がなければ新築した直ぐ後で、後悔することになります。この工法シリーズで住宅建築に対する正しい施工法や性能値などを紹介致しますので、これから住宅をお考えの方は是非、このシリーズにご期待ください。

危険な住まいの温度差 - 1

史幸工務店では冬場のトイレ・脱衣所・廊下は従来の住宅のように寒さを感じません。

★ヒートショックの心配を抑える

浴室・脱衣所でも寒くなく、急激な温度差によるヒートショックの心配を抑え、高齢者の方にも安心です。鹿児島に多い脳卒中や心臓病の予防にもなります。



★寝苦しい夜も快眠

中間期や夏のムシムシする夜、底冷えする冬の夜も、家の中は外気温や外気湿度に影響されることなく、いつも快適ゾーン。ぐっすり安眠できます。



★室内の活動が楽に

室内に温度差がないと、夏は暑く感じませんし、冬は寒く感じることはありません。それは、室内の気流が一定の温度で推移し、温度のムラがないからです。何をしても活動的になります。



★不快な室内の上下の温度差も解消

同じ部屋でも、天井付近と床面の温度差が少ないので、真冬の室内でも温度ムラがなくとても快適です。

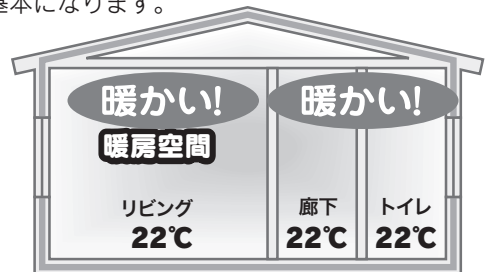


21℃
↓
23℃
低温暖房が高性能の証し。

史幸工務店では冬場のトイレ・脱衣所・廊下は従来の住宅のように寒さを感じません。

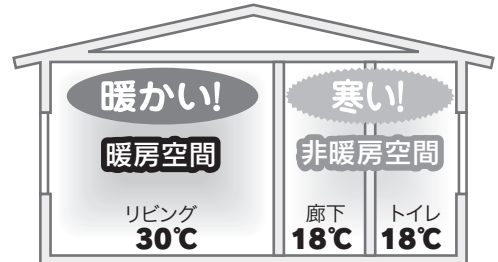
史幸の家

高性能住宅の条件は住宅内に温度差が少ないことです。住宅内に温度差があると脳血管疾患の重大な原因になります。史幸工務店の住宅はエアコン1台の開放型住宅が基本になります。



一般の家

暖房空間だけが暖かく家中に温度差が生じます。

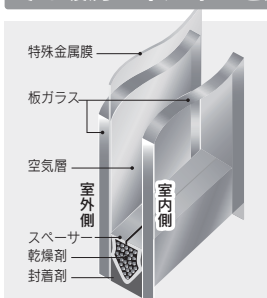


さらに、断熱・遮熱効果を高める樹脂サッシとLow-E複層ガラス

開口部の窓やドアから侵入してくる熱は夏は暑さ、冬は寒さとして感じられます。開口部は、断熱性能を考える場合最も重要な部分でしたが、今まではアルミサッシなどが主流で、それが結露などを引き起こす大きな原因になっていました。

史幸工務店では、いち早く開口部の高性能化を実現し、国産の高性能樹脂サッシを採用してまいりました。近年では、ガラス性能に着目し、紫外線を約88%も遮断し、断熱性能も高めるLow-Eガラスの採用を推奨しています。右図でもお分かりになるように開口部は高性能住宅にとって最も重要な部分です。

史幸工務店は、夏は太陽熱を反射して涼しく、冬は暖房エネルギーを逃さない、Low-Eガラスを推奨致します。

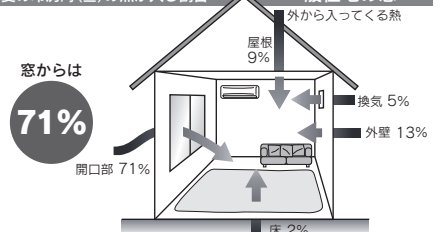


夏は、室内に入ってくる太陽熱を約半分カット。夏の日射や西日、ベランダからの照り返しなどを遮り、冷房効率をアップします。冬は逆に、暖房による熱エネルギーを反射して暖かい室内を実現。1年を通して冷暖房効率を高めます。さらに、遮音性能にも優れ、外部の騒音はもちろん、室内からの音も遮り、プライバシーにも効果的です。

更に高性能を望まれるならトリプルガラス樹脂サッシをお勧めします。

窓断熱の重要性を知っておこう!

夏の冷房時(昼)の熱が入る割合



冬の暖房時の熱が逃げる割合

